

③ 説明会の期間中に受けた主な質問

Q1 素案から案になった段階で、変更がありましたか？

A1 都市高速鉄道については、都市計画に定める区域や構造形式などの変更点はありません。鉄道付属街路には一部変更および追加がありました。(変更箇所は下高井戸駅、桜上水駅、上北沢駅、千歳烏山駅各駅付近です。)

Q2 今回の都市計画案による高架橋は、東北地方太平洋沖地震と同程度の規模の地震に耐えられるのですか？

A2 土木学会、日本都市計画学会、地盤工学会は、阪神・淡路大震災後の耐震に対する考え方に基づいて補強された鉄道高架橋の橋脚は、無被害であったと報告しています。また、国土交通省は、同大震災以降の基準で建設された在来線の高架橋に大きな損傷は見られなかったことを公表しています。
今回の都市計画案で示した高架方式についても、阪神・淡路大震災以降に改定された基準等で建設することとなるため、設置される高架構造物は今回と同規模の地震に対しても有効であると考えています。なお、今後、基準等が見直された場合は、新たな基準等で設計・建設を行います。



● Q&A は要旨を掲載しています。

Q3 高架式の場合、直下型地震への対応として構造物の耐震性の強化が重要と考えます。被害を最小限にとどめる対応はどうなっているのですか？

A3 発生する地震の規模によっては、鉄道構造物が被害を受ける可能性は否定できません。現在の耐震設計の考え方においては、大地震時には構造物への損傷を許容し、小さく壊れることで構造物に強い粘りをつくり出し、これにより、構造物が被災した場合でも、壊滅的な損傷を防止し、速やかに復旧できることを目標としています。
高架式であっても地下式であっても、現在の耐震設計基準に従って安全性を確保するとともに、今後、耐震基準の見直しがあった際には、これとの整合を図るなど適切に対応することとなります。



Q4 今回の都市計画の変更によって、自分の家が用地取得の範囲に含まれるかどうか、また、対象の面積等が明確になるのは、いつでしょうか？

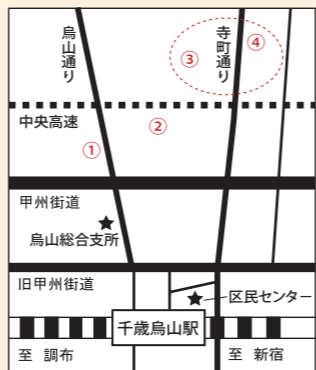
A4 都市計画決定(平成24年度予定)後に用地測量等説明会を開催のうえ、用地測量を行って土地境界を確認し、事業に必要な区域や面積を確定させていただきます。

Q5 用地取得はいつ頃から始まるのでしょうか？

A5 都市計画事業認可(平成25年度予定)後に用地補償説明会を開催します。説明会では用地取得の手順や補償内容および生活再建制度について説明いたします。それ以降に、用地をお譲りいただくことや移転等の具体的なことについて、権利者の方々に對して、順次、個別にお話しさせていただきます。

④ 沿線歩いて発見(千歳烏山)

今回は千歳烏山駅周辺を紹介します。
『烏山』の地名は南北朝時代から続いており、この地が乾いた黒土でカラスのようだったとか、その昔、烏山某と言われる人の館跡があったからだとか、カラスの群棲する大森林があったとか、その由来には諸説あります。
駅の改札を北側に出ると、烏山区民センターがあります。ここには大正から昭和初期にかけて烏山尋常高等小学校(後烏山小学校)がありました。センター前の広場では、からすやま新年子どもまつり(表紙写真)やフリーマーケットなど各種イベントが行なわれており、区民の交流の場として活用されています。
いつも賑やかな商店街を抜けて甲州街道を渡ると、ケヤキの大木や竹林、サクラなどが植えられた、北烏山九丁目屋敷林市民緑地(写真①)があります。普通の白菜より3倍大きい“下山千歳白菜”の発祥地であり、300年以上続く農家の雰囲気や今に残す、地域の憩いの場となっています。
そこから北東に向かって歩くと、たくさんのツツジが見えてきます。烏山つつじ緑地(写真②)です。4月から5月にかけて見事に咲き誇り、花見客で賑わいます。さらに中央高速道路に沿って東へ進み、寺町通りを北へ向かうと、辺りは烏山寺町と呼ばれる一帯となります(写真③)。ここは、大正時代、関東大震災で被災した東京下町の寺院が移転してできた町で、現在26の寺院があり「世田谷の小京都」と言われる緑豊かな落ち着いた景観を造りだしています。
桜の季節には「烏山花まつり」が開催され、名物のお稚児行列(写真④)には毎回多くの子供たちが参加し、冠と色鮮やかな衣装をまとってゆっくと練り歩きます。
みなさんも歴史と文化のあふれる千歳烏山駅周辺地区を散策されてみてはいかがでしょうか。



～「京王電鉄京王線(笹塚駅～つつじヶ丘駅間)の連続立体交差化・複々線化に関する都市計画案および環境影響評価準備書、関連する側道の都市計画案等の説明会」が8会場で開催されました～

第9号

京王線沿線まちづくり通信

発行：2011年7月 世田谷区交通政策担当部鉄道立体・街づくり調整担当課

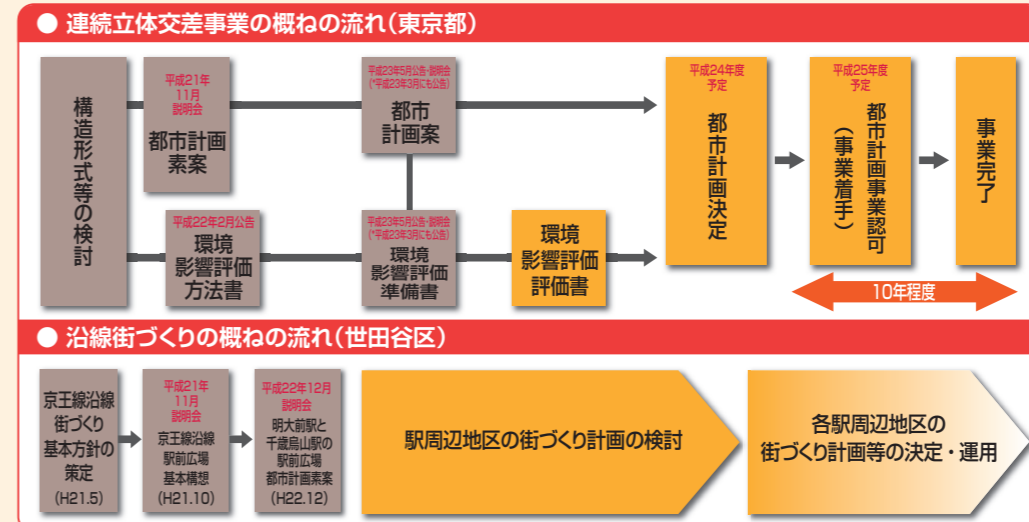
- 2・3面 ▶ ①京王電鉄京王線の連続立体交差化・複々線化および関連する側道の都市計画案等の概要
- 2・3面 ▶ ②環境影響評価手続きの主な流れ
- 4面 ▶ ③説明会の期間中に受けた主な質問 ④沿線歩いて発見(千歳烏山)



「京王電鉄京王線(笹塚駅～つつじヶ丘駅間)の連続立体交差化・複々線化に関する都市計画案および環境影響評価準備書、関連する側道の都市計画案等の説明会」を、5月16日から5月25日にかけて、各駅8会場において開催し、延べ約2,000名の皆さんにご参加いただきました。
説明会では、構造形式の検討経過などと環境影響評価準備書の説明が行われました。「騒音」、「振動」など11項目について、工事中の建設機械の稼働や工事完了後の鉄道施設などが周辺環境に及ぼす影響について予測・評価の結果を説明しました。
今回の通信では、都市計画案等の概要を中心に、説明会の期間中に寄せられた質問(東日本大震災による影響や安全性、測量等今後のスケジュールなど)についてお知らせします。
これからも、ご意見とご質問をいただきながら、引き続き皆さんとともに沿線街づくりの検討を進めていきます。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

からすやま新年子どもまつりの様子

千歳烏山駅 北口



都市計画案等説明会の開催状況

5月16日(月)	世田谷区立芦花中学校
5月17日(火)	世田谷区立上北沢小学校
5月18日(水)	世田谷区立東大原小学校
5月19日(木)	世田谷区立松原中学校
5月20日(金)	世田谷区立松原小学校
5月23日(月)	世田谷区立烏山北小学校
5月24日(火)	杉並区立永福南小学校
5月25日(水)	調布市立第八中学校

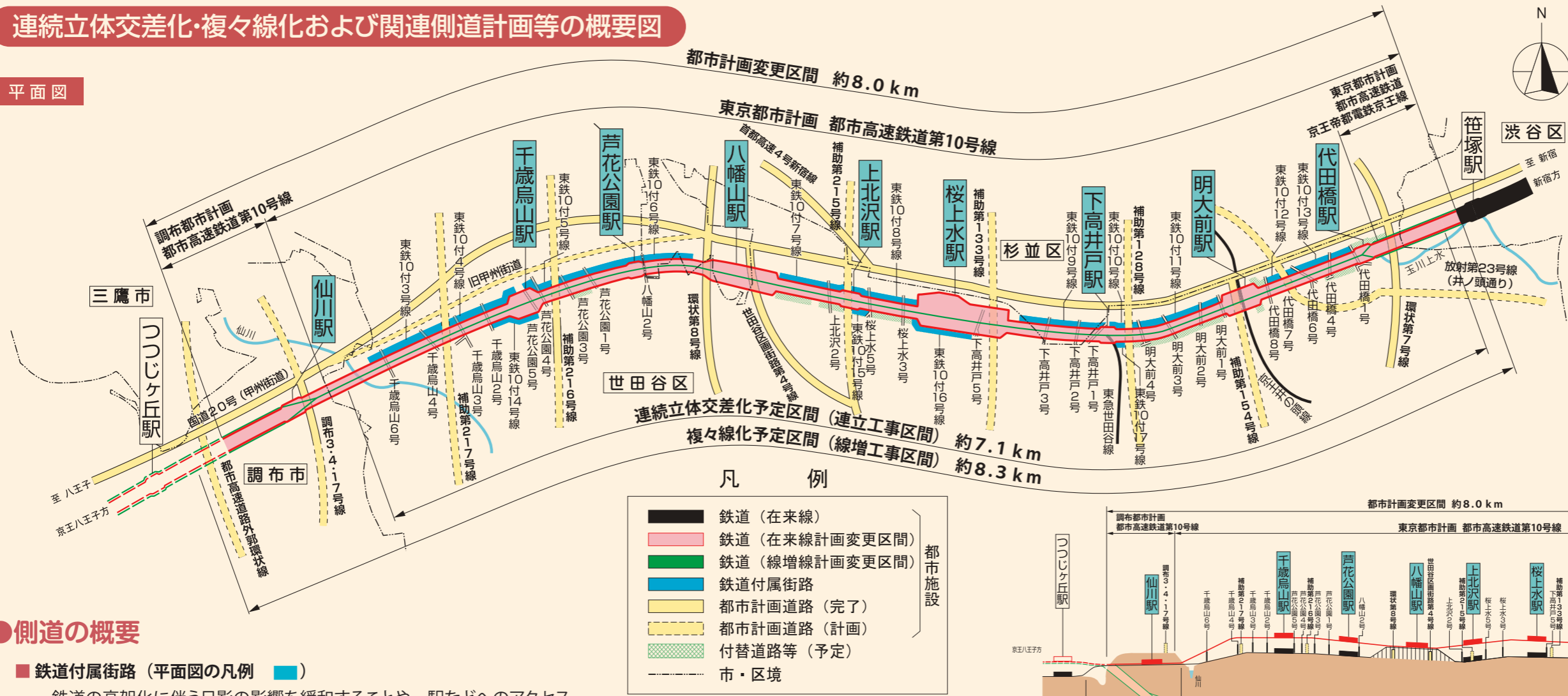


説明会の様子(世田谷区立烏山北小学校)

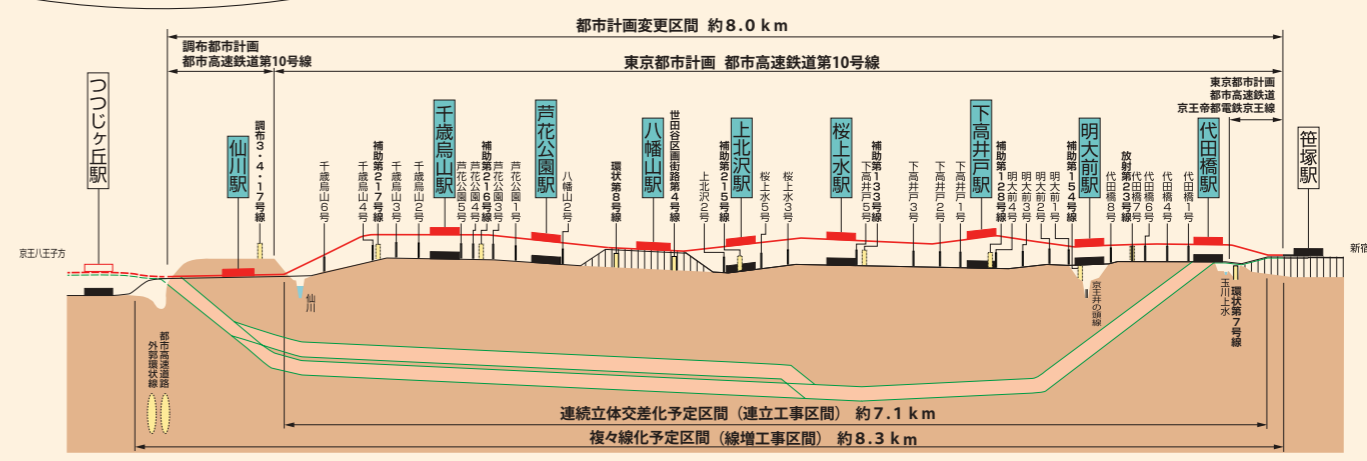
① 京王電鉄京王線の連続立体交差化・複々線化および関連する側道の都市計画案等の概要

連続立体交差化・複々線化および関連側道計画等の概要図

平面図



縦断図



側道の概要

■ 鉄道附属街路 (平面図の凡例)

鉄道の高架化に伴う日影の影響を緩和することや、駅などへのアクセスの向上、防災機能の強化など、沿線地域の利便性や安全性を高めることを目的とする道路です。

- 都市施設
- 鉄道 (在来線)
 - 鉄道 (在来線計画変更区間)
 - 鉄道 (線増線計画変更区間)
 - 鉄道附属街路
 - 都市計画道路 (完了)
 - 都市計画道路 (計画)
 - 付替道路等 (予定)
 - 市・区境

鉄道附属街路名	延長	幅員
東鉄10付3号線	約500m	6m
東鉄10付4号線	約500m	6~8.5m
東鉄10付5号線	約150m	6m
東鉄10付6号線	約890m	6~12m
東鉄10付7号線	約410m	6m
東鉄10付8号線	約440m	6m
東鉄10付9号線	約480m	6~9m
東鉄10付10号線	約120m	6~14.5m
東鉄10付11号線	約560m	6~19m
東鉄10付12号線	約140m	6m
東鉄10付13号線	約430m	6m
東鉄10付14号線	約300m	6m
東鉄10付15号線	約130m	6m
東鉄10付16号線	約400m	6m
東鉄10付17号線	約110m	6~10m

■ 付替道路等 (予定) 箇所

(平面図の凡例)

高架構造物の用地を確保する際に、鉄道と並行する道路の機能が阻害された場合、必要に応じて整備する道路です。

付替道路等 (予定) の箇所

代田橋駅、明大前駅、下高井戸駅、上北沢駅各駅付近、および都市計画道路補助第216号線付近

幅員

付替道路の幅員は、在来道路の幅員によるものとする。ただし、在来道路の幅員が4mに満たない場合は、4mとする。

② 環境影響評価手続きの主な流れ

